子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Associations Between Paternal Autism Traits and Parenting from the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

父親の自閉症特性と子育て行動との関連:エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名:鳥取ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Scientific Reports

年: 2024

DOI: 10.1038/s41598-024-67978-8

筆頭著者名: 榎原 文

所属 UC 名: 鳥取ユニットセンター

目的:

近年、父親の育児参加への関心が高まり、父親の子育てに関する研究が増えている。父親が育児に参加することで、母親の育児ストレスは軽減し、子どもの成長発達にもよい影響があることが明らかになっている。しかし、自閉症の特性を持つ父親の子育て行動は解明されていない。本研究は、自閉症の特性を持つ父親の子育て行動を明らかにすることを目的とした。

方法:

エコチル調査の参加者のうち、子どもが両親と同居しており、両親が自閉症スペクトラム指数 10 項目短縮版(AQ-J-10)に回答した 39,864 組を解析対象とした。子どもが 2 歳時点での父親の子育て行動(食事の用意・手伝い、オムツ交換、一緒にお風呂に入る、衣服の着脱の手伝い、遊び相手)と父親の自閉症特性の関連について、ロジスティック回帰分析を行った。また、父親の子育て行動と、社会的スキル、コミュニケーション、想像力、注意の切り替えの特性との関連についても、ロジスティック回帰分析で解析した。

結果:

自閉症の特性を持つ父親の割合は 6.7%であった。自閉症の特性を持つ父親は、食事の用意・手伝いをしない(調整オッズ比=1.11)、子どもの着替えの手伝いをしない(調整オッズ比=1.17)傾向があった。しかし、自閉症の特性を持つ父親と、オムツ交換、一緒にお風呂に入る、遊び相手になるという子育て行動との間に関連はなかった。コミュニケーションスキルが低い父親は、あらゆるタイプの子育て行動をしない傾向にあった。社会的スキルの低い父親及び注意の切り替えが難しい父親は、オムツ交換をする傾向があった。

考察(研究の限界を含める):

自閉症の特性を持つ父親は、子どものニーズ(たとえば、食事や汗で服が汚れた時など)をタイムリーに捉え、自発的に行動することが難しい可能性が示唆された。また自閉症の特性を持つ父親にとっては、2 歳の子どもが自分で食べる能力を発達させる上で、どの程度サポートすることが望ましいのか、判断が難しい可能性がある。本研究により、自閉症の特性を持つ父親の子育て行動の特性が示唆されたため、できる子育て行動を尊重しつつ、一方で、難しいと感じる子育て行動を支援する重要性が示唆された。本研究の限界は、父親の子育て行動の有無を問うており、どのように子育て行動が行われたのかを評価できなかったこと、AQ-J-10 は自己申告に基づくため、過大評価または過小評価につながった可能性があること等である。

結論:

自閉症の特性を持つ父親は、食事の用意・手伝いや、子どもの着替えの手伝いをしない傾向がある。しかし、自閉症の特性を持つ父親と、オムツ交換、一緒にお風呂に入る、遊び相手になるという子育て行動との間に関連はなかった。